

コンピュータネットワークを活用した英語授業

和歌山県那賀郡桃山町立桃山中学校

ふくもと もと あき
福元元章

【実践の概要】

今回の私の試みは、英語による実践的なコミュニケーション能力を育成するために、インターネットを利用して、学習者が実際に英語を使用しなければならない場面を設定することにより、生徒たちにとくに「読む」「書く」を中心としたコミュニケーション活動に取り組ませること、その基礎になる語彙や文法の力を身につけさせるために校内ウェブ（イントラネット）を活用した学習に取り組ませることの2つの学習活動のあり方を模索したものである。

今回の取り組みを通じ、子どもたちは英語に対する関心やコミュニケーションに対する意欲を向上させ、語彙力、文法力等を高めることができた。

【論文内容の紹介】

1 はじめに

「実際に英語を用いたコミュニケーション活動」をインターネットは可能にしてくれた。この本物のコミュニケーション活動を通して生徒たちのコミュニケーション能力を高めることができないかと考え、電子メールを利用した外国の生徒との交流と生徒がブラウザを用いて自主的に学習することが可能な手作りの英語教材を使った授業に取り組んだ。

2 インターネットの活用

(1) E-Mail Project

- ・韓国の中学生とメールによる交流を行ったが、この交流は ①英語が世界の共通語であることを認識させやすい ②両国の生徒

の英語力が同程度である ③メールのテーマとして共通の話題が多い、等の点で英語圏の人たちとの交流よりメリットが多かった。

- ・交流を継続させるためE-Mail文例集の作成、翻訳ソフトの利用等の工夫を加えた。

(2) Travel Brochure Project

米国のある中学校のコンピュータ学級で行われたTravel Brochure Project に,"Nature in Momoyama" というテーマに関する情報をデジタルカメラで撮影した写真とメールで提供するという形で参加させてもらった。後日完成したパンフレットが本校に送られてきたが、生徒たちは自分たちの提供した情報がパンフレットという目に見える形となって戻ってきたことに大きな喜びを感じていた。

3 イントラネットの活用

カナダのUniversity of Victoriaが無償で提供しているHot Potatoesという、HTML形式で教材の作成が可能なソフトを用いて、(a)ReadingExercise (b)Crossword Puzzle (c)Gap-FillExerciseの3種類の教材を作成し、それを校内ウェブに掲載することにより、主にALT とのチームティーチングで、それらを活用した授業を行った。

4 成果と課題

- ・多くの生徒がインターネットやイントラネットを利用した授業を非常に楽しみにしているが、それは子どもたちがその学習を通じて英語が実際にコミュニケーションに用いられるのだということを身をもって感じ取っているからである。今回の取り組みは、それを実感させるのに十分な効果があった。
- ・イントラネットの活用については、生徒たちが自分のペースで学習を進めることが可能であるということに最大の成果を見出せた。
- ・新学習指導要領に対応した活動時間の確保が最大の課題である。そのためには教科書の学習内容をうまく取り入れた新たな教材の開発が必須であろう。